

二種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種を受けられる方へ

病気について

ジフテリアはジフテリア菌の飛沫感染で起こります。のどや鼻に感染し、症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜がのどにできて窒息死することもあります。発病 2～3 週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経まひを起こすことがあるため注意が必要です。

破傷風は土の中にいる菌が傷口から体内に入ることによって感染します。菌の出す毒素のために、筋肉の強直性けいれんを起こします。最初は、口が開かなくなるなどの症状で気づかれ、やがて全身の強直性けいれんを起こすようになります。治療が遅れると死に至ることもあります。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

予防接種の受け方

次のような方法で接種し、免疫をつくってください。

◆1期：生後3か月～7歳6か月に至るまで（7歳6か月になる前日まで）

〈初回接種〉20日以上、標準的には56日までの間隔をおいて2回接種（生後3～12か月までが望ましい）

〈追加接種〉初回接種2回目を接種後6か月以上おいて1回接種〔2回目接種後1年～1年半までが望ましい〕

◆2期：11歳以上13歳未満（13歳になる前日まで）に1回接種

予防接種後の注意と副反応について

- ① 予防接種を受けたあとはしばらくお子さんの様子をみた後、医療機関の指示に従ってください。
- ② 接種後24時間は、副反応の出現に注意し、観察してください。
- ③ 発熱もなく、体調がよければ接種日当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をなるべく、こすらないようにしてください。
- ④ 接種日当日はいつもどおりの生活をしてかまいません。激しい運動はさけてください。
- ⑤ 接種後の副反応としては、注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）など局所の反応が主です。接種回数を増やすと局所の反応は増加します。局所の発赤・腫脹（はれ）は数日で自然に治りますが、熱感や発赤が強いときには、冷湿布（冷たいガーゼ）で軽減します。なお、硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。特に過敏な子で、ひじをこえて腕全体がはれた例が少数あります。全身症状では発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、下痢、めまい、関節痛がありますが、通常一過性で2～3日中に消失します。接種後1週間くらいはお子さんの健康状態に気をつけてください。接種後、機嫌がわるくなったり、異常があるとき（はれが目立つときなど）は、接種を受けた医師にご相談ください。また、下記にもご連絡ください。

（予防接種健康被害救済制度について）

重篤な副反応が出現する頻度は極めて稀ですが、みなさんが安心して予防接種を受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものかの因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審議会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合は、法に基づく健康被害給付の対象となります。

お問い合わせ先

大東市地域保健課【すこやかセンター（保健医療福祉センター）3階】 ☎072（874）9500

四條畷市立保健センター ☎072（877）1231